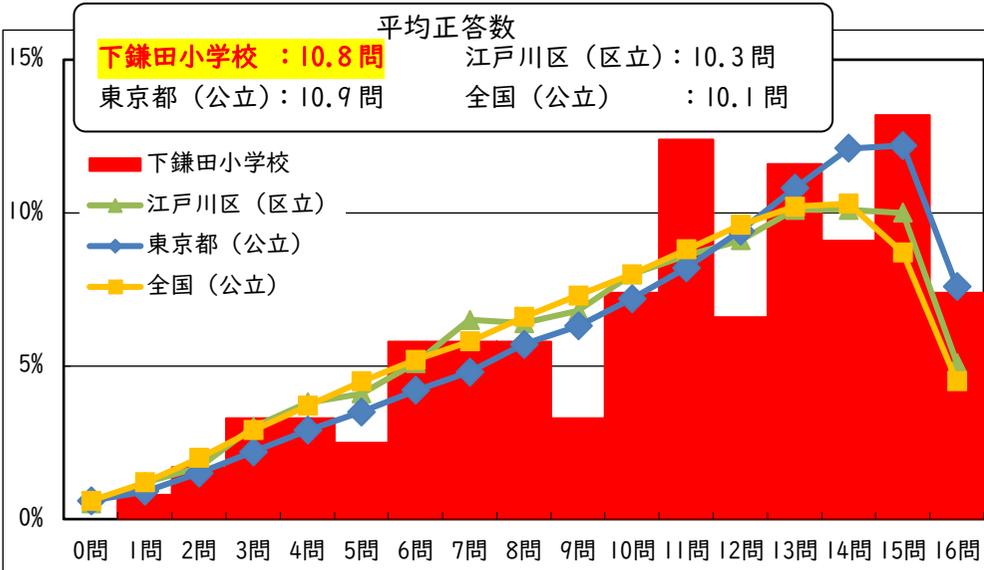
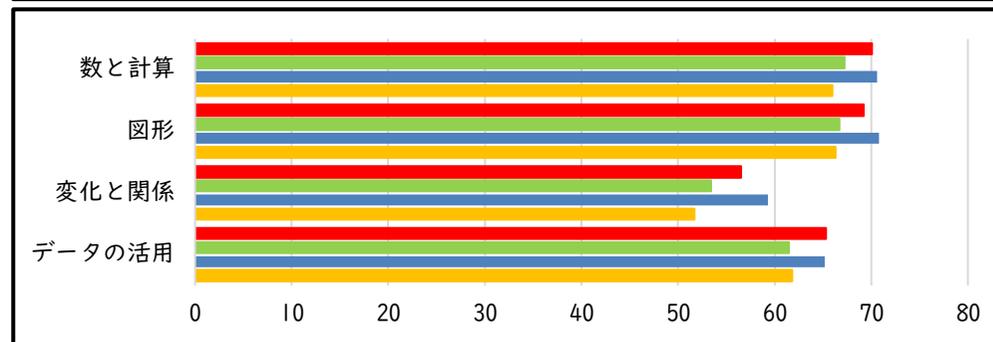
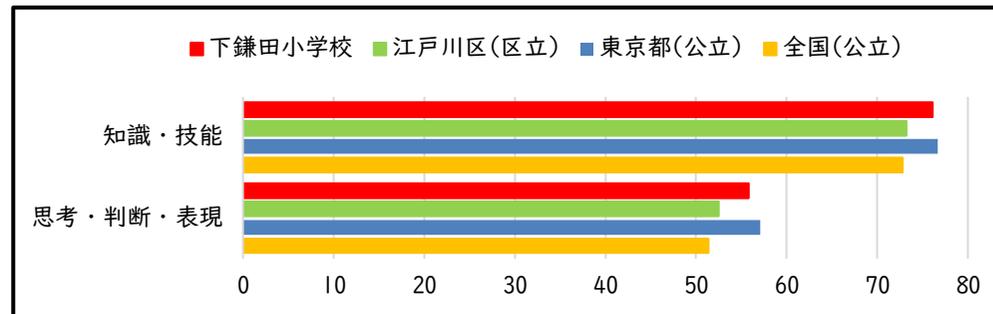


正答数分布



「領域別」の結果



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

算数	四分位			
	A層 14~16問	B層 12~13問	C層 8~11問	D層 0~7問
下鎌田小学校	29.7	18.2	28.9	23.2
江戸川区(区立)	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都(公立)	31.9	20.2	27.4	20.5
全国(公立)	23.5	19.8	30.7	26.0

【平均正答率の差】

下鎌田小学校	67%
江戸川区(区立)	64%
東京都(公立)	68%
全国(公立)	63.4%
都との差	1ポイント

【分析結果と授業改善に向けて】

算数の平均正答率は、都平均を1%下回っているものの、全国平均は上回っている。

設問ごとにしてみると、「除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる」という設問に対する正答率が都平均と比べ約9%、全国平均と比べても約5%低くなっている。また、全国的に課題となっている図と文章から必要な情報を抜き出して問題を解決する設問に対して、本校においても課題となっている。

演算を単なる処理で終わらせるのではなく、具体的な場面を取り上げるなどして、量的な実感をもてるような指導を系統だてて行っていく必要があるとともに、文章だけでなく図や表も含めた複合的な課題を意図的に取り上げる必要がある。

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。